

〔科目名〕 日本経済概論	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 専門科目 基礎科目(必修)
〔担当者〕 木立力, 大矢奈美	〔オフィス・アワー〕 時間: 各担当者の初回に連絡する 場所:	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 経済「学」には分析方法・理論を学ぶ統計学, ミクロ経済学, マクロ経済学と, ある分野を専門的に学ぶ労働経済学, 国際経済学, 金融経済学などの応用分野がある。 それらに対して, この科目はこれから学ぶ対象である日本経済について, その概観を示すとともに, 個々の経済問題が密接に相互関連していることを解説する。経済はグローバル化しているが, 私たちは日本で生活しているので, 日本から世界を見ることになる。そのため日本の制度・システムの特徴と日本から見た経済の全体像を明らかにする。 前半は大矢が担当し, 戦後の日本経済を概観し, アベノミクスまでの日本経済の歩みを追う。後半(第9回～)は木立力が担当し, 前半の内容を踏まえ, 近年の日本経済における課題を労働, 社会保障, 財政などさまざまな側面から光を当てて。全体を通じて日本経済の全体像が理解できるようになる。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ, 学ぶ必要があるか・学んだことが, 何に結びつかか〕 1年次では, 経済統計, ミクロ経済学, 経済数学などの経済「学」の理論を学び, 2年次以降では, 金融経済学, 財政学, 労働経済学, 地域経済学などの専門科目を学ぶことになる。経済について洞察することが目的であるから, 理論を厳密に学ぶことは重要ではあるが, 理論は抽象化された概念構成で成り立っている。現実との接点を見失っては, 目的を実現する事は出来ない。また, 専門科目を詳細に学ぶことは重要ではあるが, 他の経済問題との関連を見失ってはならない。この科目を学ぶことによって, 第1に経済「学」の理論はどのように使われるのか, 第2に各専門科目は相互にどのように関連しているのかがわかり, 経済学科で学ぶことの鳥瞰図が描けるようになる。第3に経済学はその背景をなす社会構造と切り離せない。日本経済は日本社会の基盤の上に成り立っていることを理解する。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 経済学科で学ぶ対象としての経済問題を扱うので, 具体的な経済問題とその背後にある社会問題が数多く取り上げられる。個々の経済問題・社会問題について正確に理解し, 日本経済の個々の特徴を捉えることが中間目標である。 日本の経済問題や日本経済の個々の特徴は, 相互に関連している。これらが一体となった日本経済の全体像を, 講義を通して受講者一人一人が描き, 個別専門領域に取り組むことが出来るようになることが最終目標である。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 概ね良好な評価を得られたと思われるが, 引き続き, 資料の提示方法や板書の際の文字の大きさなど, 工夫する。 第5回に予定している「独占禁止法教室」の位置づけについてのコメントも見られたが, 前半を担当していた大矢の説明が不十分であったと思われるので, 第1回のガイダンスおよび講義の中で戦後経済成長を支えたという点でも重要な競争政策であることを説明し, 受講する意義を伝えるようにしたい。		
〔教科書〕 特に指定しない。		
〔指定図書〕 宮川・細野・細谷・川上(2017)『日本経済論 (【ベーシック+】)』中央経済社。		
〔参考書〕 なし		

<p>〔前提科目〕 なし</p>	
<p>〔学修の課題, 評価の方法〕(テスト, レポート等) 前半部分を確認する小テストと, 後半部分を扱う期末試験の合計点によって評価する.</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 80 点以上 A, 70 点以上 80 点未満 B, 60 点以上 70 点未満 C, 50 点以上 60 点未満 D, 50 点未満 F</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 日本経済についての好奇心を喚起し, さらに詳しく学ぶ向学心につながるような講義にしたい. なお, 以下の授業スケジュールにおいて, 第 5 回をゲストスピーカーによる講演としているが, スケジュールが前後する可能性もあるので留意して欲しい.</p>	
<p>〔実務経歴〕 なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本経済の歩み: 高度成長期 内 容: 現代の日本経済の基礎を形成した時期をふりかえる.</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本経済の歩み: 高度成長から低成長へ、プラザ合意 内 容: 低成長期への転換, 変動相場制への移行と円高</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): バブル経済の発生 内 容: バブル経済の発生過程</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか): バブル経済の崩壊 内 容: バブル経済の崩壊「失われた 10 年」へ.</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本の競争政策 内 容: 「独占禁止法教室」</p> <p>ゲストスピーカー: 公正取引委員会顧問による講演</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 長期不況, 再生への道 内 容: バブル崩壊後の長期不況と, 日本経済の再生過程, 金融政策</p> <p>教科書・指定図書</p>
第 7 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 東日本大震災とアベノミクス 内 容: リーマンショックによる世界同時不況, 東日本大震災後の日本経済とアベノミクスを考える.</p> <p>教科書・指定図書</p>

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):小テスト 内 容: 前半のまとめと小テスト</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働 内 容:日本の雇用システム</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働② 内 容:女性の就労とこれからの働き方</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):労働③ 内 容:少子化問題</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):財政制度 内 容:日本の財政制度の概要</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):財政の現状 内 容:日本の債務</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):社会保障 内 容:日本の社会保障制度の概要</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):貿易 内 容:日本の貿易の概要</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	後半部分(第9回～第15回)の内容に関する試験